

# 郡山市日和田地区

## 1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 適切な排水対策や雑草対策を実施し、収量の安定化と高品質な大豆生産を図る。
- 収量や品質の安定化により収益が向上し、水田農業経営の安定化が図られる。



## 2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- ほ場条件を考慮した年数でブロックローテーション（水稻→大豆→水稻）
- 地域農業の担い手として、農地を借り受けて経営面積を拡大している。
- 作付面積の拡大に応じて、水稻作との労力分散や収益確保のため大豆栽培を拡大している。

表 作付面積の推移（単位：ha）

	H27	R3	R7
水稻	41.4	57.7	71.1
（内直播）	23.7	15.6	20.4
大豆	17.3	21.2	24.9
合計	58.7	78.9	96.0

## 3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

### <需要に応じた生産を徹底>

- 実需者の要望を踏まえ、平成29年から「里のほほえみ」に品種を切替え

### <適切な湿害対策と雑草・病害虫防除による安定生産・品質向上>

- 額縁明渠、心土破碎、自動操舵トラクタでの耕うん同時畝立播種による湿害対策
- 中耕培土（ディスク型）、土壌+茎葉処理剤による雑草防除の実施
- ドローンによる適期病害虫防除の実施

### <水稻作業との労力分散>

- 5月は水稻移植、6月は大豆播種など、労力分散を図っている。



心土破碎



中耕培土

## 4 取組成果

### <大豆生産の高位安定化を実現>

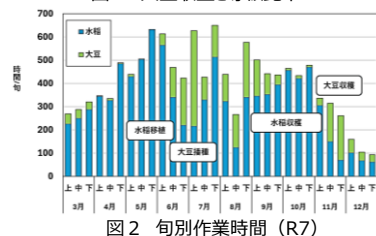
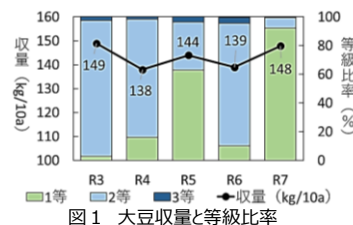
- 高品質な大豆の安定生産が図られている（図1）。  
単収：149kg/10a（R3）→148kg/10a（R7）  
上位等級（1、2等）の比率が毎年**95%以上**（R4～7）

### <水稻作業との労力分散>

- 大豆の作業時間は水稻よりも少なく、労力分散も図られている（図2）。  
水稻作業時間：14.6h/10a、大豆作業時間：8.8h/10a（R7）

### <安定した農業所得の確保>

- 販売収入+交付金により安定した収入を確保している。  
大豆収入（R7）：約86,000円/10a（内、交付金等が約68,000円）



## 5 残された課題

- 一部ほ場で増加している難防除雑草（帰化アサガオ類・アレチウリ）の対策が課題 ⇒ 試験的に実施したトリフルリン乳剤の土壌混和処理が有効であったため、令和8年産では本格的に実施する予定。